

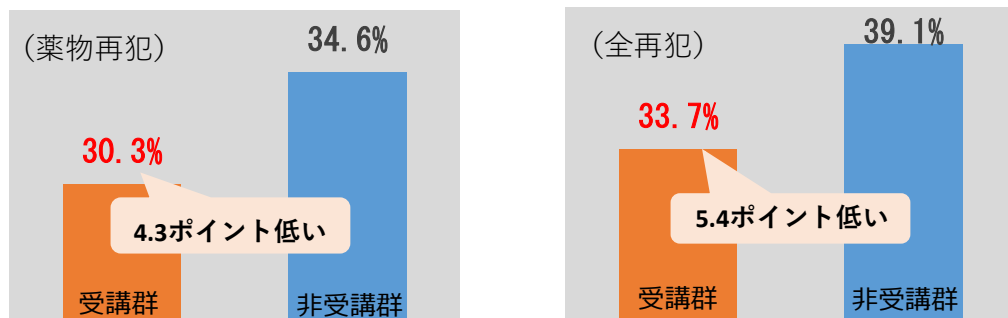
保護観察所における薬物再乱用防止プログラムの効果検証結果

調査1 薬物再乱用防止プログラム受講者の再犯追跡調査

概要

平成30年に薬物事犯により保護観察を開始した成人の保護観察対象者4,661名のうち、受講の有無以外の要因が結果に影響を与えないよう、受講群と非受講群の属性や特性等が等質となるように抽出した2,812名について、保護観察開始から令和3年末までの再犯状況を追跡調査し、コアプログラム受講の有無で再犯率を比較した

コアプログラム受講の有無と再犯率



※両群の属性・特性等を統制した上での分析結果

受講群は非受講群より**再犯率が統計的に有意に低かった**

コアプログラムの受講が**再犯を抑制する効果がある**ことを示唆

調査2 薬物再乱用防止プログラム受講前後の心理的变化に関する調査

概要

刑事施設から出所した保護観察対象者のうち、コアプログラム受講者に対し、その受講前後に個別自記式の質問紙調査を実施し、①薬物依存に関する心理尺度得点の比較、②心理的变化と再犯の関係を検証した※調査対象者は73名

薬物依存に関する心理尺度得点の比較

◎受講前後で、薬物依存改善に向けた動機付け等が比較的高い水準であった

◎薬物に対する欲求が生じたときの対処に関する自信の程度も比較的高い水準であった

※プログラム受講前から薬物依存改善に向けた動機付け等が比較的高かった理由としては、本調査対象者の多くが刑事施設において薬物依存離脱指導の専門プログラムを受講し、仮釈放等により刑事施設を出所している者であることなどが考えられる

心理的变化と再犯の関係

再犯の抑制に以下の要因が統計的に有意に寄与

- ◎受講前後で薬物使用に問題があるかもしれないという疑念の程度が上昇すること
- ◎受講後に具体的な場面で薬物への欲求に対処できる自信が高い状態にあること

コアプログラムで以下の働き掛けをすることが重要

- ・薬物への欲求が生じた具体的な場面において適切に対処できていることへの気づきを促すなどして自己効力感を向上させること
- ・断薬を継続できていても自身には薬物依存の問題があるかもしれないという認識を深めさせること

今後、コアプログラムだけでなく、ステップアッププログラム、簡易薬物検出検査の実施状況や地域の医療・援助機関等の利用状況も考慮した調査を実施することが必要